

キャリアデザイン学部

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

1 学科学部であるキャリアデザイン学部の強みとして、教員組織が小規模であることから、教員間の意見の交換や意思の疎通を図ること、諸施策の策定などが行いやすいものと推察される。したがって学部の諸施策について、機動力をもった運用をしやすい学部であるとも言え、実際、各評価基準に対する問題点の把握と様々な対応方策にそのメリットが窺える。なお、台湾を渡航先とした実習系科目の実施について、教育効果は高いものと思われるが、対応する教員の業務負担軽減への対応が今後必要になるとと思われる。教員が同行しない場合の渡航と現地での生活に関する安全面の確保については十分に留意されたい。この「キャリア体験学習(国際・台湾)」は国際性の涵養という点でも注目されるため、ウェブページ等で参加学生の感想等を発信することについても検討されたい。また、学部のウェブサイトで公開されているカリキュラムツリーの閲覧性の高さ(〇〇A、〇〇Bなどの、集約しても差し支えない科目を集約して記載している点)や、カリキュラムマップに示されている短文による講義概要の記載等は、よく工夫されている。このように、キャリアデザイン学部の取り組みには他学部でも参考になるものが見られ、評価できる。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

教員組織が比較的小規模であることから、教員間の意思疎通と機動力をもって諸施策を策定し、運用してきたという総評の指摘については、本学部の特長として認識しており、その特長を自覚しつつ今後も取り組みを継続してゆくことしたい。

台湾実習の業務負担軽減および学生の現地生活に関する安全面の確保などへの対応については、本授業担当教員のほか学部内に設置されている国際交流委員会の委員、執行部、事務主任が台湾での実習を支援する協力者(日台教育センター担当者)と緊密に連携しつつ、現地滞在日程と役割の分担を調整してきたところであり、今後もその方針を継続する予定である。しかしながら、昨今の新型コロナ感染防止の観点から、少なくとも2020年度の現地実習は見合わせることにした。なお、キャリア体験学習(国際・台湾)の現地実習についての報告書は毎年発行してきたところである。今後はご指摘にあったWebページに公開する形での幅広い発信の実現に向けて、国際交流委員会及び広報委員会とが連携しながら取り組んでいくこととしたい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

キャリアデザイン学部は、教員組織が比較的小規模であり、教員間の意思疎通と機動力を以て諸施策の策定、運用を継続的に行っていくことは今後も望まれるところである。2019年度の大学評価委員会の評価結果における懸案事項であった台湾実習の業務負担軽減、および学生の現地生活に関する安全面の確保などについては、現地協力者と緊密な連携により、役割分担や日程調整などの対応が執られ始めた。2020年度は新型コロナウイルスの影響から現地実習が見合わされることとなったが、次年度以降も、適切な対応が継続されることを望む。また、キャリア体験学習についてのウェブページへの公開についても取り組みが検討されており、幅広い情報発信の実現が期待される。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S  A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

教育課程の編成・実施方針に基づき、学生の能力育成という観点から、各科目は適切な教育内容を提供できるように配置されている。とりわけ、専門教育において基幹的な位置を占める科目については、原則として専任教員が担当する体制をとっている。「キャリアデザイン学入門」「3つの領域別の必修の入門科目」をはじめとする基幹科目において基礎的な理解を形成し、2年次以降の領域ごとの展開科目で専門性を深めるとともに、2年次秋学期からの「演習」において問題意識を掘り下げ、卒業論文の執筆、「キャリアデザイン学総合演習」で総括するという積み上げ型のカリキュラムとなっている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

また、本学部の特徴である選択必修科目の「展開体験」では、高校等に対するキャリア支援や企業等での実習による体験を通じて、実社会におけるキャリアデザインへの理解を深めている。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

・2020年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) ~ (38)

[https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331\\_cd\\_2020tebiki.pdf](https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf)

・キャリアデザイン学部ホームページ「カリキュラム」

<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/curriculum>

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S  A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

本学部では、教養教育と専門教育を段階的に位置づけるのではなく、相互が相乗的な効果をあげることができるように、1年次から市ヶ谷基礎科目だけではなく、専門科目を幅広く設置している。

専門科目については、1年次から履修できる「基幹科目」、2年次から履修できる「展開科目」「関連科目」、2年次秋学期から履修できる「演習」、4年次に履修できる「卒業論文」「キャリアデザイン学総合演習」を系統的に配置し、カリキュラムの順次性に配慮している。また、専門科目は、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」の3領域の科目群、および体験型学習科目に分かれ、共通→分化→統合という学習の履歴を追うことができるように設計されており、カリキュラムの体系性が保たれている。

2012年度から実施した新カリキュラムでは、学生が自身の専門を従来よりも意識して体系的に履修することを可能にし、また2017年度より、調査法の拡充（キャリア研究調査法入門の新設）、領域別の入門科目の柔軟な履修機会の確保という観点から一部改定を行っている。

なお、「キャリア研究調査法入門」を新設し、方法論の習得に関して順次性・階梯性を改善した。

また本学部の学生が、実際に、順次性・階梯性・体系性のある履修をするためには、履修単位上限の拘束を緩和することが肝要であることから、2017年度より、教職・資格課程科目の一部を「関連科目」から除くことで、これを実施できるように改編した。

さらに2017年度はカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを完成させ、ディプロマポリシーに照らして各科目の配置を示し、その順次性・体系性について確認するとともに、学生に対して科目配置の考え方を明示した。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) ~ (38)

[https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331\\_cd\\_2020tebiki.pdf](https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf)

・2018年度キャリアデザイン学部講義概要（シラバス）「キャリア研究調査法入門」p.2

・キャリアデザイン学部ホームページ「カリキュラム」

<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/curriculum>

③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S  A B

※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

市ヶ谷基礎科目と専門科目をバランスよく履修することにより、専門分野に特化した人材としてだけではなく、幅広い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を備えた人材を育てることができるような教育課程の編成に留意している。また選択した個別領域を深く学ぶとともに、学生が領域横断的な学びを付加し幅広い専門性を修得できるようにしている。さらに、豊かな人間性涵養のためには、大学の学びの中で多様な体験をすることが重要であることから、体験型授業を必修選択とし、体験を通じて自己理解、社会への理解を深め、多様な観点から事象を把握できるような能力伸長を目指している。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 - (1) ~ (38)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育として、市ヶ谷基礎科目の「基礎ゼミ」「法政学への招待」「情報処理演習」、専門科目の「キャリアデザイン学入門」「3 領域別のキャリアデザイン学入門」「キャリア研究調査法入門」を配置し、専門への導入として位置付けている。</p> <p>高大接続への配慮については、市ヶ谷基礎科目 0 群の「基礎ゼミ」において、全クラスにおける標準シラバスと共通の評価システムの適用と共通テキストの活用により、基本的なアカデミックスキルズを修得することと並行して、高校生と大学生の学習・生活における違い、引用と剽窃の違い、電子メールの書き方・送り方、等について原則として専任教員が丁寧に指導している。</p> <p>また、付属校及び指定校推薦による入学予定者に対しては、高校 3 年の 3 学期対応として課題を課しており、入学後に課題をフォローすることにより、高校から大学の学びへの円滑な移行を促している。</p>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>今後のグローバル化を踏まえると、大学で語学力を高めるのは必須と考えるが、学生が必ずしも語学の学習に積極的ではないことから、執行部と学部の英語担当教員が ILAC 英語分科会執行部と魅力的な英語カリキュラムの在り方や、学生に英語の重要性を理解させることの重要性について昨年度から継続して協議を行い、その結果を教授会で共有し、様々な機会をとらえて学生に語学の重要性を訴求することを確認した。また、2019 年度入学生に対するガイダンスでは、英語のカリキュラムの説明を充実させ、語学学習の重要性を説明した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年度キャリアデザイン学部履修の手引き 学部 (8) ～ (15)</li> </ul> <p><a href="https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf">https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年度第 1 回 FD ミーティング (2020 年 4 月 10 日) 資料「2020 年度に向けて」「基礎ゼミ」ファイル</li> <li>・ 2018 年度第 13 回教授会 (2018 年 12 月 22 日) 資料 18「付属校・指定校等第三学期課題」及び議事録</li> <li>・ 2017 年度第 14 回教授会 (2018 年 1 月 26 日) 資料 16「CD 学部英語関連科目の現状」及び議事録</li> <li>・ 新入生英語ガイダンス (2019 年 4 月 5 日)</li> </ul>	
⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>学生の国際性を涵養するために、知識・体験・語学力の向上を促進する科目を置いている。第一に、展開科目において、3 つの領域ごとに「外書講読」を配置するほか、現代の国際関係に関する理論、歴史、時事、地理等の知識を学ぶ「国際関係論」「国際地域研究」「アジア社会論」を置いている。第二に、国境を越えた体験学習の機会として、「キャリア体験学習 (国際)」でベトナム、台湾、「SA」ではオーストラリア、ニュージーランドの大学と提携したプログラムを提供している。第三に、英語力の強化を目的に、2014 年度から英語強化プログラム (ERP) のコースを実施している。また、専門演習の中には、英語使用を義務づけて実施しているクラスもある。</p> <p>学生の多様性の確保という観点から、2015 年度に留学生定員 10 名の枠を設定、2016 年度には従来のバカロレア入試や日本人学校指定校入試に加え、グローバル体験推薦入試を導入、2017 年度からは海外の指定校 (韓国 6 校) 入試を導入している。</p>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>ILAC 必修英語に関しては、2017 年度に、クラス定員を 24 人とするよう ILAC 英語分科会/運営委員会に申し入れを行い、2018 年度から 24 名定員が実現した。さらに 2019 年度においてもこの体制を継続して実施した。また 2019 年度は、必修英語履修者増加に向けた取り組みとして本学部英語担当教員と執行部で課題を共有した。</p> <p>2018 年度から引き続き 2019 年度も「キャリア体験学習 (国際)」台湾を実施した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「体験型選択必修科目/キャリア体験学習 (国際)」 学部 - (3) (35-36)</li> </ul> <p><a href="https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf">https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020 年度キャリアデザイン学部履修の手引き「スタディ・アブロード (SA) プログラムについて」 学部 - (90)</li> <li>・ 「2020 入試ガイド」</li> <li>・ 「キャリアデザイン学部パンフレット 2020 年度」 —p. 19</li> <li>・ 「2019 年度キャリア体験学習 (国際・ベトナム) 報告書」</li> <li>・ 「2019 年度キャリア体験学習 (国際・台湾) 報告書」</li> </ul>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

<p>・(Web シラバス)「キャリア体験学習国際」  <a href="https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2012065&amp;nendo=2020&amp;gakubu_id=キャリアデザイン学部&amp;gakubueng=AM&amp;t_mode=pc">https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=2012065&amp;nendo=2020&amp;gakubu_id=キャリアデザイン学部&amp;gakubueng=AM&amp;t_mode=pc</a></p>	
<p>⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>市ヶ谷基礎科目に「就業基礎力養成Ⅰ・Ⅱ」を配置するとともに、専門科目では、「キャリアデザイン学入門」をはじめとして、学部の理念に基づきすべての専門科目が、キャリア教育としての効果を持つ内容となっている。また、学部の就職委員会は、履修ガイダンスにおいて学部での学びと将来の就業との関連性について説明するなど、「就活支援」という狭い視点にとらわれない形でのキャリア支援の観点から活動を展開している。</p>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>就職委員会を中心に、キャリアアドバイザーの支援を受けながら、2019年度秋学期に就職支援プログラム「就職カフェ」「さし飯」(学生がアポをとり社会人とキャリアを語る)企画を開催した。就職活動の意義、業界研究の方法、自己PR作成といった就職活動を目前に控えた学生を対象とする内容だけでなく、社会人と接する機会やインターンシップの利用方法など、社会的自立および職業的自立に向けた意識形成を図った。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度キャリアデザイン学部履修の手引き  <a href="https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf">https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf</a> (32)</li> <li>2020年度 第1回FDミーティング(2020年4月10日)資料「就職委員会」ファイル</li> <li>2019年度 第1回FDミーティング(2020年4月10日)資料「CA制度運営委員会」ファイル</li> </ul>	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
<p>①学生の履修指導を適切に行っていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;1年次基礎ゼミ&gt;</li> <li>授業内で、領域の選択をはじめ卒業までを見据えた履修指導を実施している。</li> </ul> <p>&lt;教務委員会関連事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度の開始時に、教務委員会による学年別履修ガイダンスを開催している。</li> <li>2年生の5月に、教務委員会によるゼミ履修ガイダンスを開催している(ゼミ所属は2年生秋学期から)。その際、就職委員会からの説明も行うことにより、働くことを見据えてゼミの重要性について考えさせるようにしている。</li> <li>2年生に対し、ゼミ担当教員がゼミ関連科目を示すなどして、具体的な科目履修を推奨している。</li> </ul> <p>&lt;キャリアアドバイザー運営委員会関連事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生に対し、先輩学生をピアアドバイザーとする履修相談会を開催。</li> <li>全学年の学生に対して、随時、キャリアアドバイザーによる履修相談を行う体制が整備している。</li> </ul> <p>&lt;体験型必修科目関連事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生に対し、体験型必修科目の履修ガイダンスを実施</li> <li>履修ガイダンス配布資料の形式を整え、共通フォーマットによって各体験の内容を比較しやすくなった。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めに体験型主任主催の体験型履修ガイダンスを開催した。その際、体験型各クラスの説明フォーマットを統一し、各クラスの選考条件やプロセスの一覧表を作成し配布した。また、体験型授業の報告書や今年度の実施内容に関する資料等を配布し、情報提供を充実させた。</li> <li>ゼミ履修のゼミ別応募状況を手引きで明示し、学生のゼミ希望の参考に資することとした。</li> <li>2019年度初めの履修説明会において、英語学習の重要性について、担当教員から説明を行った。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度 ゼミ履修の手引き</li> <li>2020年度 体験型選択必修科目 ガイダンス資料(新型コロナ感染防止の観点から学部HPで周知)</li> <li>2020年度 新入生 英語ガイダンス(新型コロナ感染防止の観点から学部HPで周知)</li> <li>2019年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート</li> <li>2020年度キャリアデザイン学部履修の手引き(94)</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

[https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331\\_cd\\_2020tebiki.pdf](https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf)

- ・キャリアサポート事前指導／キャリアサポート実習成果報告書(2019年度)
- ・2019年度キャリア体験学習報告書
- ・2019年度キャリア体験学習(国際・ベトナム)報告書
- ・地域学習支援報告書
- ・キャリアデザイン学部ホームページ <https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/> : カリキュラムツリー、カリキュラムマップ

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S  A B

※取り組み概要を記入。

学習指導は、ガイダンスや個別相談、ゼミや演習等の授業の中で適切な指導が行われるように配慮している。とりわけ1年春学期の「基礎ゼミ」は、基礎能力の育成をめざして、原則として専任教員による少人数の指導体制が組まれている。2016年度からは、全クラスの基本的なスケジュール、評価方法を基礎ゼミ代表教員が作成して授業運営の均質化を図っている。具体的には、クラスごとにある程度柔軟性を持たせるという判断から、①準拠テキストの共通化、②課題内容の統一、③口頭発表の機会の回数設定、④グループディスカッションなど学生参加型の学習形式を主として進めること、⑤成績の考え方、の5項目を共通の運用条件として、その他の部分は、サブ教材とする文献の選択を含め担当教員の自由裁量とした。2017年度はそれに加え、成績評価基準、出欠席基準の共通化を図った。また、2018年度初めには、「定期試験等における不正行為の処分基準」の内容の徹底を図るため、少人数の演習のクラスを中心に資料を配布して説明を行った。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

英語スキルの重要性に鑑み、2019年度の新入生及び2年生に対する履修ガイダンスにおいて、英語カリキュラムの体系の説明、英語学習の重要性について、担当教員から丁寧な説明を行った。また、英語に関する授業の履修状況を教授会で共有し、様々な機会をとらえて各教員から英語の学びの重要性を指摘することについて確認を行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度キャリアデザイン学部履修の手引き(94)
- [https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331\\_cd\\_2020tebiki.pdf](https://hosei.study.jp/wp-content/uploads/20200331_cd_2020tebiki.pdf)
- ・2020年度キャリアデザイン学部講義概要(Webシラバス)「基礎科目(0群)基礎ゼミ」  
([https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no\\_id=1911506&nendo=2019&gakubu\\_id=リベラルアーツ&gakubueng=AX&t\\_mode=pc](https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no_id=1911506&nendo=2019&gakubu_id=リベラルアーツ&gakubueng=AX&t_mode=pc))
- ・2019年度キャリアデザイン学部 内部質保証・自己点検チェックシート
- ・2020年度 第1回 FDミーティング(2020年4月10日) 資料「基礎ゼミ」
- ・2020年度 新入生 英語ガイダンス(新型コロナ感染防止の観点から学部HPで周知)
- ・2018年度キャリアデザイン学部 内部質保証・自己点検チェックシート
- ・2019年度 第1回 FDミーティング(2018年4月5日) 資料「基礎ゼミ」及び議事録
- ・2019年度 新入生 英語ガイダンス(4月5日)

③学生の学習時間(予習・復習)を確保するための方策を行なっていますか。

S  A B

※取り組み概要を記入。

学生が授業時間以外にも学習時間(予習・復習)を確保するために、シラバスにおいて自主学習の内容を提示・指示するとともに、授業時において具体的な指導を行うように努めている。例えば、必修科目の「キャリアデザイン学入門」では「定期的に授業の振り返りのための課題を出しますので、課題文書、講義内容、参加した議論を振り返り、課題レポートを作成します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします」と明記している。特に、演習(ゼミ)は教員の裁量範囲ではあるが、時間外学習が不可欠な課題を課すことが一般的であり、これにより時間外学習を習慣づける雰囲気を作っている。提出された課題に対して教員がフィードバックをすることを繰り返すことで、質の高い学習になるよう努めるようにしている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

シラバスにおいて「授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする」ことを明記した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・キャリアデザイン学部改善計画2015中間報告書(p.13)
- ・2020年度キャリアデザイン学部講義概要  
(Webシラバス)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/preview.php?no\_id=2012020&nendo=2020&gakubu\_id=キャリアデザイン学部  
&gakubueng=AM&t\_mode=pc

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。 S  A B

**【具体的な科目名および授業形態・内容等】** ※簡条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。  
 ・「基礎ゼミ」、「情報処理演習」、「キャリア研究調査法」（質的調査）（量的調査）では、聞いて覚えるだけでなく、実際に経験して理解することが肝要であるため、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成の機会を必ずつくることを学部の了解事項とし、1クラスの人数を制限することによって教育目的を達成するようにしている。  
 ・「キャリア体験学習」（国内）（国際）、「キャリアサポート実習」「地域学習支援」「メディアリテラシー実習」では、キャリアデザインに関する基本的な知識やアプローチの方法について学び、かつ自ら研究を深める力を養うために、学外の企業、NPO、地域学習団体、高校生との協働学習を義務付けている。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。  
 特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・2020年度キャリアデザイン学部講義概要（Webシラバス）  
 ([https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=AM&t\\_mode=pc](https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?gakubueng=AM&t_mode=pc))  
 ・2019年度 体験型選択必修科目 ガイダンス資料（3月29日）

⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。 S  A B

※どのような配慮が行われているかを記入。  
 少人数規模であることがとりわけ重要なのは、語学（ILAC必修英語）、体験型授業、演習（ゼミ）である。  
 ILAC必修英語については、28人までを許容する運用を改善するために、2017年度に24人と定員するよう申し入れを行い、2018年度から24人定員が実現した。  
 体験型授業については、内容や授業補助者の有無に応じて上限人数を10～50人程度に設定している。調査法（量的・質的）も同様に、受講生を20名程度として多い場合には選考を行っている。  
 2年秋学期開始の演習（ゼミ）については、例年、上限を14～16人程度に設定し、1～3次募集を実施して、人数の平準化を図っている。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。  
 2019年度も2018年度に引き続き、語学（ILAC必修英語）の定員を従来の「28人」から「24人」に減らすことにより、語学教育の効果的な展開を図った。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・2017年度 第4回教授会（2017年6月2日） 資料12「教務委員会資料」及び議事録  
 ・2019年度 体験型選択必修科目 ガイダンス資料（3月29日）  
 ・2019年度 ゼミ履修の手引き  
 ・2020年度 ゼミ履修の手引き

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。 S  A B

**【確認体制および方法】** ※簡条書きで記入。  
 ・進級に関する規定、早期卒業に関する規程を定めている。  
 ・ Semester毎の学部平均のGPAは教授会場で報告・検討され、講義科目におけるA+の割合は、学部における申し合わせどおり、15%以内におさめるように確認している。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。  
 特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。  
 ・進級に関する規程（2020年度キャリアデザイン学部履修の手引き学部-(87)）  
 ・2019年度 第4回教授会（2019年6月7日） 資料3及び議事録

②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。 S  A B

※取り組み概要を記入。  
 FD推進センターによるGPA平均の情報開示を行い、個々の教員（兼任含む）に自覚を促している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>2013 年度まで学部主催科目の GPA 平均が他学部に比べて著しく高くなっていた（平均 2.8）。この一因は、一定規模（50 人）以上の授業で、A+（15%以上）の成績評価を出している授業科目が少なくないことにあり、該当する専任・兼任教員に A+を 15%以内には正することを要請した。その結果、2014 年度以降、A+の割合が 15%を超える科目が減少した。</p>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019 年度 第 4 回教授会（2019 年 6 月 7 日） 資料 3 及び議事録</p>	
<p>③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。</p>	<p>はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/></p>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・就職状況については、キャリアセンターから提供を受けた卒業生の進路データをもとに学部として実態を把握し、就職委員会による分析を教授会全体で共有している。 ・就職支援についてはキャリアアドバイザーとも連携しており、進路データは適切な就職支援を行なうために、キャリアアドバイザーによる学生の進路相談にも活用している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学部パンフレット 2020 年度 ・2020 年度 第 1 回 FD ミーティング（2020 年 4 月 10 日） 資料 F13「就職委員会」及び議事録 ・2019 年度 第 1 回 FD ミーティング（2019 年 4 月 5 日） 資料 13「就職委員会」及び議事録</p>	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</p>	<p>はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/></p>
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・成績分布、進級については、学部として実態を把握し、留年者、卒業留保者に対しては、キャリアアドバイザーによる面談を実施している。 ・低成績取得者に対する面談も実施している。面談に来ない学生への督促等について具体的な定めがなかったため、案内や督促に関する具体的なフローを教授会で審議し、決定した（*）。 ・体験型選択必修科目で単位を取得できなかった 3 年生について教授会で情報を共有し、体験型科目の目的や評価基準を含む中長期的な課題に関するワーキングの立ち上げを決定した（**）。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学部ホームページ「キャリアアドバイザー制度」 <a href="http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/adviser.html">http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/shokai/adviser.html</a> ・2020 年 3 月 13 日教授会資料（*） ・2020 年 2 月 21 日教授会資料（**）</p>	
<p>②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/></p>
<p>※取り組みの概要を記入。 ・体験型選択必修科目の単位認定にあたっての基準をより明確にし、科目間のばらつきを減らした。 ・教務委員会の主導で学部のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成し、カリキュラムマップのなかで学部の独自性を反映した教育目標を 6 項目設定し、それらに対する各科目の位置づけ、到達目標を教授会等で明確に示している。</p>	
<p><b>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャリアデザイン学部ホームページ「カリキュラム」 <a href="http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/gakka/curriculum/index.html">http://www.hosei.ac.jp/careerdesign/gakka/curriculum/index.html</a> ・2020 年 2 月 21 日教授会資料</p>	
<p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/></p>
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・体験型科目（一部）における Career Action Vision Test に基づく測定・評価：CAVT は、学部で開発した評価規準・方法であり、これに基づいて成果の検証を行っている。
- ・SA については、英語コミュニケーションのレベルは年ごとに高まっている。10 名の学生が行った帰国報告会での英語プレゼンテーションも、単なる留学紹介ではなく、将来のキャリア展望や今後の学部での学びの計画などより踏み込んだ内容のものが多かった。
- ・アセスメント・ポリシーに基づき、卒論の指導及び評価について、各領域で現状把握を行い、FD ミーティングにおいて情報を共有した。
- ・例年実施している卒業論文等に関する学生研究発表会は、2019 年度は 2020 年 2 月 1 日（土）に開催され、当日は 11 会場に分かれて各会場 5～6 本ずつ発表が行われた。全発表終了後には当該教室の複数の教員が講評を述べるというかたちで、評価を行った。キャリアデザインに関わる社会現象や政策・施策等について、個人研究やグループ研究の成果が発表され、活発に質疑応答がなされており、ゼミを超えて研究を深める機会になったと評することができる。

**【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

卒業論文の指導及び評価に関する現状把握と情報共有。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2019 年度キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート
- ・2019 年度 キャリアデザイン学部学生研究発表報告要旨集

④学習成果を可視化していますか。

S  A B

※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。

- ・専門演習（卒業論文等）の研究発表会の公開および要旨集録の作成、web での公開。
- ・今年度は学生研究発表会要旨集に加え、卒業論文の要旨集を作成し、学内で閲覧可能とした。このように卒論を「見える化」することは、教員間の卒論に対する評価のすり合わせや、教育レベルの一層の向上につながる事が期待される。
- ・体験型科目（ABC コース、国際、キャリアサポート等）の成果報告書作成・配布、web での公開
- ・「地域学習支援Ⅱ」「キャリア体験（国際）ベトナム」「キャリア体験（国際）台湾」の大学イベントスペースにおけるポスターセッションの実施。
- ・キャリア体験学主 C コースによる成果報告会の開催。

**【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

卒業論文要旨集の作成・学内での公開。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2019 年度キャリアデザイン学部学生研究発表会報告要旨集・卒業論文要旨集
- ・キャリア体験学習 ABC コース成果報告書（2019 年度）
- ・キャリア体験学習（国際）ベトナム/台湾成果報告書（2019 年度）
- ・キャリアサポート事前指導/キャリアサポート実習成果報告書（2019 年度）

1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。

①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学部設置以来、2 回の抜本的なカリキュラム改編を、教学改革委員会を設置して実施した（2011、17 年度）。マイナーなカリキュラムの改編については、教務委員会が必要に応じて実施し、教育課程の内容等の改善・向上を図っている。検証にあたっては、自己点検・質保証委員会が、執行部との連絡を密にしつつ毎年度末に各取り組み担当者からの報告をうけて点検・評価を行ったのち、教授会において改善提案するしくみを運用している。

年度始め、秋学期始め、年度終わりの年 3 回開催する FD ミーティングにおいて、基礎ゼミ、入門授業、調査法、体験型授業などの学部の基幹的な科目の内容については、担当教員間での点検したのち、主担当教員から教授会で報告し全体で情報共有、意見交換をおこなう。かようにして次年度の授業の改善につなげている。年度末には、自己点検・質保証委員会が、各基幹授業についての状況を聴取し、評価している。

なお本学部の三領域（発達・教育、ビジネス、ライフ）では、次のカリキュラム改編を念頭に置きつつ、それぞれの順次性・階梯性を検討し始めたところである。

**【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度から実施した「キャリア体験学習（国際・台湾）」の実施状況の把握、点検</li> <li>・体験型科目における教育成果の可視化</li> <li>・（例えば）「発達・教育」領域における、諸基幹授業の授業回ごとのキーワード一覧表の試作</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度 キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート</li> <li>・第1～3回FDミーティング 配布資料（2019/04/05, 09/20, 2020/02/21）</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、授業改善アンケートから得られた気づきにもとづいた改善を計画し、それを次年度のシラバスに記すことを教務委員会が徹底させている。</li> </ul>	
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業改善アンケートを授業内で実施するなど、学生の回答率の上昇に努めた。</li> <li>・FDミーティングにおける各授業担当者からの報告・論点提起は、授業改善アンケートからの気づきも織り込んでのものであり、それらを全体で共有した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度 キャリアデザイン学部内部質保証・自己点検チェックシート</li> <li>・第2回FDミーティング 配布資料NO.1（2019/09/20）</li> </ul>	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度に問題点（少人数科目）として指摘された、ILAC情報処理科目の見直しを遂行した。ILAC情報分科会・事務方と議論を重ね、本学部枠8クラスを4クラスへと半減させた（4クラスはILACへ返却）。</li> </ul>	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数科目のさらなるスクラップ・アンド・ビルドを、教職・資格科目が多いという学部特性に配慮しながら、行っていく必要がある。</li> <li>・2019年度より新規設置の、「キャリア研究調査法実習」半期6コマ（日本語教育関連科目の代替）の受講者数増加を図っていく必要がある。</li> </ul>	

**【この基準の大学評価】**

<p>キャリアデザイン学部では、教育課程の編成・実施方針に基づき、適切な教育内容を提供ができるように教育課程・教育内容の配置がなされている。専門教育においては、基幹的な科目は専任教員が担当し、1年次から4年次までの系統的な積み上げ型カリキュラムの順次性は適切に配慮されており、体系性も保たれている。基礎科目と専門科目はバランスよく履修できるようになっており、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養すべく教育課程が編成されている。初年次教育、高大接続についても適切に配慮されている。国際性・職業的自立の涵養に関しては、知識・体験・語学力の向上を促進する科目が置かれ、特に「キャリア体験学習（国際）」は優れたプログラムである。</p> <p>学生への履修指導、学習指導は適切に行われ、学部の教育上の目的を達成するための効果的な授業形態が積極的に導入されており、高く評価できる。1授業当たりの学生数は2018年度から改善が実現し、成績評価・単位認定及び学位授与は適切に行われている。学習成果は、教育目標が設定され、基準を明確化し、必要に応じて学生の面談を行うなど実態の把握に努めている。また、教育課程およびその内容、方法の適切性については、学生による授業改善アンケート結果などを組織的に利用することで定期的に点検・調査・改善計画を行い、情報は共有され適切に対処されている。</p> <p>2018年度に問題点として自己評価された、少人数科目のILAC情報処理科目の見直しを遂行したことは高く評価できる。今後とも継続的に少人数科目のスクラップ・アンド・ビルドや受講者数増加への努力を期待したい。</p>
--

2 教員・教員組織

**【2020年5月時点の点検・評価】**

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【FD活動を行うための体制】</b> ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部FDミーティングは全専任教員およびキャリアアドバイザーを含めて定例的に年3回実施しており、執行部がとりおこなう運営体制となっている</li> <li>・内部自己点検・質保証委員会（構成員4名）が、執行部と距離をおき、第三者的に改善提案をする体制を構築している</li> <li>・日常的なFD活動については教務委員会が、他方で三領域（発達・教育、ビジネス、ライフ）それぞれが対応している</li> </ul> <p><b>【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部FD定例ミーティング             <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回（4月5日開催、キャリア情報ルーム、出席者26名（欠席1名、公務出張者2名））                  学部長から新年度の運営方針が示された。具体的には①質保証の強化、②学部理念の共有化、③業務の効率化である。基幹科目担当者から現状と課題、各委員会から活動実績と活動計画、学部シンポジウム、キャリアアドバイザーの取り組み状況などが報告し、学部全体で課題を共有した。</li> <li>第2回（9月20日開催、キャリア情報ルーム、出席者26名（欠席2名、公務出張者1名））                  学部長から年度当初の学部計画の半年後の点検と確認を行うとともに、基幹科目担当者と各委員会から、キャリアアドバイザーから中間報告をおこない学部として情報を共有した。</li> <li>第3回（2月21日開催、キャリア情報ルーム、出席者27名（欠席1名、公務出張者1名））                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部質保証・自己点検委員会が、各担当者から自己点検チェックシートをもとに実績報告をうけ、目標達成状況と改善点の有無を確認した。</li> <li>・基幹科目担当、各委員会の1年間の活動総括を行い、学部全体で情報を共有した。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・2019年度の中期目標・年度目標達成状況報告書について、第3回FDにおける自己点検チェックシートに基づいて執行部が作成した。それに対する評価・改善提案を内部質保証・自己点検委員会が実施し、2019年度第16回教授会(3/14開催)にて報告した。</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1-3回FDミーティング配布資料および議事録</li> <li>・2018年度 内部質保証・自己点検チェックシート</li> <li>・2018年度 中期目標・年度目標達成状況報告書</li> </ul>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習や体験型授業などにおいて、社会連携を積極的に進めている。</li> <li>・学生サポート助成金（法政大学キャリアデザイン学会より支出）を設けて、学生の学外での社会貢献活動を支援する方策を講じている（毎年10件程度、1件あたり10-12万円の助成）。</li> <li>・法政大学キャリアデザイン学会の「研究プロジェクト助成事業」をとおして、学部教員が主導する研究プロジェクトを支援している（3年間継続、年20万円の助成）。</li> <li>・法政大学キャリアデザイン学会で年6回の研究会を開催し、学部教員の研究に資すると同時に、研究会を公開し、社会還元をはかっている。</li> <li>・年1回の学部紀要の発行、年2回の法政大学キャリアデザイン学会紀要の発行により研究成果を報告する機会を設けている。</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生サポート助成金の、応募ならびに実施規定の、社会貢献性をより意識した、また、よりユーザーフレンドリーな改善を図り、次年度より運用。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学キャリアデザイン学部紀要および法政大学キャリアデザイン学会紀要</li> <li>・法政大学キャリアデザイン学会紀要 Vol.17.No.2、2020年3月。（シンポジウム報告、学生サポート助成金報告）</li> </ul>	

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。  
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
冒頭の「2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況」でも触れたように、教員組織が比較的小規模であることから、教員間の意思疎通と機動力をもって、諸施策を策定し、運用してきたことは本学部の特長として認識しており、そうした方向性を今後も堅持してゆくことしたい。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
特になし	

【この基準の大学評価】

<p>キャリアデザイン学部では、執行部が執り行うFD定例ミーティングを全専任教員およびキャリアアドバイザーの参加により年3回実施し、教務委員会および三領域（発達・教育、ビジネス、ライフ）それぞれで日常的なFD活動が実施されている。FD活動は、執行部から独立した内部自己点検・質保証委員会の設置によって第三者的に評価・改善提案できる体制が整えられ、その結果はFDミーティングおよび教授会で学部全体に共有されており、適切である。</p> <p>研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策については、学部学会の「研究プロジェクト助成事業」によって支援され、年6回の研究会の開催、年1回の紀要の発行、年2回の学会紀要の発行により、研究成果は公開されている。また、演習や体験型授業などにより社会連携は積極的に推し進められ、「学生サポート助成金」によって学生の学外での社会貢献活動は支援されており、優れた取り組みである。</p>
--

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	2017年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。	
	年度目標	①2018年度から実施する「キャリア体験学習（国際・台湾）」が二年度目にあたることから、引き続きその実施状況の把握、点検を行う。	
	達成指標	2019年度の実施プログラムについて、執行部、国際交流委員会等がプログラムの実施状況を把握し、教授会で共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	国際交流委員会で事前にプログラムの内容を検討し、教授会で共有した。また、授業の事後にも担当者から報告を受けることによって、実施状況を把握するように努めた。また、現地でのアクシデントへの対応について、学部全体の危機管理体制について再確認を行った。
		改善策	兼任講師が担当する科目について、現地での天候不順によるスケジュール変更や学生の体調への対応など、不測の事態に対応するためのよりよい体制づくりが今後の検討課題である。
質保証委員会による点検・評価			
所見	国際交流委員会および教授会の議論を踏まえ、プログラムが円滑に実施されたと評価する。担当教員の尽力はもとより、学部長自身が現地を訪問している点も、現地大学との信頼構築およびプログラムの向上の観点から評価される。		
改善のための提言	来年度より専任の担当教員が変更になることから、いかに業務を引き継ぎ、プログラムを滞りなく進めるかが課題になる。国際交流委員会はもとより、教授会とも十分な情報共有を図っていく必要がある。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	2017年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。	
	年度目標	②2018年度で終了した「多文化社会における日本語教育」等の日本語教育関連科目6コマ（半期）に代わって新規に設定した科目「キャリア研究調査法実習」について、その実施状況の把握、点検を行う。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	2019年度から実施される科目「キャリア研究調査法実習」については、執行部、教務委員会等が実施状況を把握し、教授会で共有する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	今年度から新規に開設された「キャリア研究調査法実習」(春学期3科目、秋学期3科目)については、教務委員会で履修者数等の現状を把握し、執行部と科目間の履修者数の差異を含めた課題を共有した。
	改善策	受講者の少なかった授業については、担当の教員とも相談の上、授業のサブテーマの修正および授業曜日・時限等を変更することとした。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新科目の履修状況について、教務委員会および執行部が適切に観察し、課題を把握していると評価する。
	改善のための提言	科目間の履修者数の差異等についてより詳しく記述した方がよいだろう。本科目は開設されたばかりなので、来年度以降も履修状況等を観察する必要がある。履修者が少数にとどまるのであれば、科目の統廃合も検討に値する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	2017年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	③履修者数が少ない情報処理演習(8コマ)の見直しに着手する。
	達成指標	検討委員会を立ち上げて情報処理系科目の内容を精査するとともに、学部としての必要性を検討し、今年度中に教授会に改善措置案を提示する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	4月に検討ワーキングを立ち上げて執行部主導で見直しを進めた。2回(5月、6月)のワーキングでの作業を経て、8コマを4コマに削減する結論を出した。教授会の承認を得て、ILAC運営委員会及び学部の情報センター運営委員とともに担当教員との調整を行い迅速に実行した。
	改善策	改善、改革については丁寧な議論が必要な場合もあるが、可能な限り迅速に実行に移すことが重要である。その点で、情報処理演習科目のコマ削減に関しては非常に早い決着をつけることができた。
質保証委員会による点検・評価		
所見	授業コマの削減には反対する意見もあったが、ワーキング・グループの提言を受けて、執行部のリーダーシップの下、授業コマの削減を実現した点は非常に評価できる。	
改善のための提言	データ・サイエンスの重要性が増大しているにも拘らず、本学部の情報処理演習の履修者が少数に留まっている点は依然として課題である。プログラムが現代社会のニーズや学生の能力向上に適合したものかどうかについて、検討を継続することが望まれる。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
4	中期目標	2017年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	③グローバル化に対応し、英語能力を有する人材育成を行う。
	達成指標	英語担当教員を中心に、カリキュラム、学生の学習能力向上に向けた取り組みの検討を始める。
	教授会執行部による点検・評価	
年度末報告	自己評価	A
	理由	昨年度より、必修英語(ILAC管轄)の基準人数を他学部と同様の24名に変更した。本学部担当の非常勤の教員と、法文営国・人環の担当の非常勤の教員との相互乗り入れについては進んでおり、学部独自の英語兼任講師懇談会は、今年度より英語分科会内の意見交換会にその機能を移行した。本年度の課題は、昨年度に引き続き、学部専門科目の英語およびILAC管

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			轄の選択英語の履修者数の増加であったが、担当教員の変更に伴い選択英語の履修者数が減少する傾向がみられた。しかし CD 学部管轄の英語の履修者数は増加したが、上級レベルのクラスの履修者人数に関しては、ILAC 管轄科目、学部専門科目ともに依然課題が残されている。	
	改善策		今後も昨年度に引き続き、ゼミや講義をとおした学生への周知や時間割の調整など、学部をあげて学生の英語への関心を高める必要がある。	
	質保証委員会による点検・評価			
	所見		非常勤講師について他学部との協力体制を構築した点は評価できる。また、新学期のオリエンテーションにおいて、英語学習のロードマップを学生に示している点も評価される。	
	改善のための提言		英語の学習については、入試を通じて、どの程度の英語能力を持った学生に対して教育を行っているのかという点と結び付けた議論が必要と思われる。入試種別が変化あるいは多様化する中、英語のプログラムがそれに見合ったものになっているかどうかについても議論が必要であろう。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】		
5	中期目標	100 分授業の教育効果を高めるための教育方法について検討する。		
	年度目標	各教員の実施する教育方法について、教務委員会を中心に、各教員の取組状況を把握・FD ミーティングで共有し、教育方法の改善を進める。		
	達成指標	教務委員会を中心に取り組み状況を把握し、FD ミーティングで状況を共有し、改善に向けた課題、授業の質を保証するための方策を検討する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	年 3 回 FD 会議を開催し、執行部、教務委員会の他、各授業科目担当者（基礎ゼミ、領域ごとの入門科目、キャリア研究調査法、体験型選択科目、キャリアアドバイザーなど）の間で改善に向けた課題、授業の質を保証する方策について検討を行った。特に今年度は入門系科目から展開科目への順序性および体系性について領域ごとに教員間で交換を行い課題を共有した。	
		改善策	体験型選択科目については目的や評価基準の検討および領域ごとの入門系科目から展開科目への順序性および体系性についての検討を引き続き行っていく。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	年 3 回各学期ごとに、キャリアアドバイザーをも含むファカルティにより学部教育の全般について広く現状および課題の把握に努めている点は非常に評価される。FD における議論を通じて、授業内容の改善が実現するなど、本 FD 会議が果たしている役割は大きいので、来年度以降も同様の運用が望まれる。	
	改善のための提言	現状において大きな問題はみられないが、議題が多い分、議論が表層化しているように感じられる。各 FD 会議において、特定の論点について議論するなど、重要課題について議論しやすい設定を行うことも一案である。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】		
6	中期目標	本学部の教育目標を達成するとともに、その教育成果を発信する。		
	年度目標	①就職支援を充実させ、大学のキャリア支援策をリードする。		
	達成指標	学部の特色を活かし、キャリアセンターとの連携を取りつつキャリアデザインという観点から学部独自の就職支援策を実施する。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	学部独自の取り組みである「さし飯（学部生がアポをとり、社会人と 1 対 1 でランチをとりながらキャリアについて話し合う）」の活動は 2019 年度でまる 2 年となり、参加者から、就職活動にさまざまな形で役立っているとの意見を頂いている。2019 年度は、キャリアセンターの実施行事を予め確認し、学部独自の「就職カフェ」（学部生を対象として昼休みにセミナー形式で実施）のメニューを見直した（重複を排除）。また、学部生がキャリアセンターを	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			より有効に活用できるよう、秋学期の「就職カフェ」にキャリアセンターの担当者を招き、「就活の強い味方～「キャリアセンターの活用の仕方」と題する講話を頂いた。
	改善策		次年度も学部独自の取り組みを継続して実施していく。
		質保証委員会による点検・評価	
	所見		キャリアセンターの実施行事と学部独自の「就職カフェ」の重複排除と連携強化を図った点が評価される。その効果が再現・持続されるか、2020年度には注視していく。
	改善のための提言		注視を継続する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
7	中期目標	本学部の教育目標を達成するとともに、その教育成果を発信する。	
	年度目標	②体験型科目に関しては、成果の可視化に取り組む。	
	達成指標	体験型科目の成果報告集の作成、ポスターセッションの実施等により、多様な体験の内容を発表する機会を設ける。	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A	
	理由	昨年度に引き続き、ポスターセッションや体験型科目の成果報告集の作成を行い、成果の可視化という課題に継続して取り組んだ。	
	改善策	特になし	
年度末報告		質保証委員会による点検・評価	
	所見	成果の可視化は指導コストが高いが、学生のモチベーションを高める点で重要であり、これに継続して取り組んだことが評価できる。	
	改善のための提言	取り組みを継続する。	
No	評価基準	学生の受け入れ	
8	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。	
	年度目標	①入学者の定員管理を厳格に行う。	
	達成指標	特別入試と一般入試の入学者の割合を考慮しつつ、適切な水準の入学定員の充足を図る。	
		教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B	
	理由	特別入試のうちグローバル体験入試については相当絞ることができたが、自己推薦入試については昨年度よりやや多く受け入れることになった。その結果、一般入試と特別入試の入学者割合は当初の予定よりやや多いものとなった。	
	改善策	引き続き特別入試の割合を絞る方向で取り組むが、自己推薦入試については、特別入試の在り方検討ワーキンググループの検討結果を踏まえて、学部アドミッションポリシーに合致した特徴ある学生を受け入れる方向で対応していく。	
年度末報告		質保証委員会による点検・評価	
	所見	左記グループは当該入試の審査手続き要領の必要性と案を提示しており、妥当な方向性であると判断する。	
	改善のための提言	次年度においては、審査手続き要領の議論・共有・運用と展開していくことが肝心である。	
No	評価基準	学生の受け入れ	
9	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。	
	年度目標	②指定校、特別入試に関して、入学者の状況を適切に判断し、制度内容等についての検討を行う。	
	達成指標	2019年度入試において実施した特別入試の制度改正の状況をフォローするとともに、指定校学生の成績を継続的に把握して、適宜見直しを行う。とくにキャリア体験（自己推薦）の試験趣旨の選考過程での明確化、指定校入試における入学後成績の分析を踏まえた指定校との緊張感ある関係づくり、さらに新島学園短大からの編入時期の変更などを行う。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	特別入試のあり方を検討するワーキングを立ち上げ、一般入試への英語外部試験の導入と特別入試の募集条件と選考方法に関して検討することができた。データに基づいた分析を進めた。英語外部試験の導入に関しては教授会の承認を得て、来年度の入試から実施する。特別入試のうち自己推薦入試に関しては、専願で評定を3.8以上という形での条件水準の引き上げを実施することとした。いずれも具体的な改革の実行という成果が得られた。
		改善策	改革の成果が出ていることから、スピード感を落とさずに、改革を継続的に実行していくことが今後の課題である。また、改革したものに関しては検証を怠らず、しっかりと見直しをはかり、次年度への改革につなげる。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	左記ワーキンググループは議論すべき点を明確化して、短期集中型で密度濃く議論し、教授会宛提案をまとめた点が評価できる。
		改善のための提言	上記参照。
No	評価基準	学生の受け入れ	
10	年度末報告	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。
		年度目標	③入学希望者に対しては、アドミッションポリシーの理解を高めるために、学部としての情報発信の効果的な方法を検討する
		達成指標	学部広報として、ゼミ紹介等の動画配信をさらに増加させるとともにインターネットを活用した広報への取り組みを重点化する。また、学部シンポジウムの充実を図る。
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	学部紹介ホームページのデザインを一新、写真を大型化する事で学部の活動内容が直感的に理解しやすいように改善された。また受験生を意識して学部紹介動画も更新し、学生目線による学部紹介を新たに作成することで、受験生の疑問に答えやすい環境が整えられた。
		改善策	次年度も学部の活動を充実し、それを積極的にホームページ上に掲載する事で、学部の特色と活動のアピールを継続していく。
質保証委員会による点検・評価			
所見	「デジタル・ネイティブ」世代の認知とセンスについて考えながら、それに対応すべく実施したことが評価できる。」		
改善のための提言	今年度同様に継続していく。		
No	評価基準	教員・教員組織	
11	年度末報告	中期目標	3つの領域の教員バランスに配慮し、教員の多様性を確保することに留意し、適切な教員の任用を行う。
		年度目標	2018年度から専任教員が1名減となることを踏まえ、適切な教員配置について検討する。
		達成指標	学部教育、資格課程、大学院教育における教員の配分の現状分析を執行部・教務委員会を中心に行い、必要に応じて配分の変更について検討を進める。
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	学部教育、資格課程、大学院教育における教員の配分の現状分析を行ったが、今年度については教員の配置および配分の変更は必要であるとの結論には至らなかった。
		改善策	来年度以降も引き続き、学部教育、資格課程、大学院教育における教員の配分の現状分析を行う。
質保証委員会による点検・評価			
所見	執行部も述べるとおり、本年度は、人事上の特段大きな変更は生じなかったため、重要な反省事項はとりわけ生じなかったと考えられる。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		改善のための提言	今年度同様の体制が望まれる。ただし、2021年度以降に向けた配置には、前もって注意して配慮していく必要がある。
No		評価基準	学生支援
12	年度末報告	中期目標	学生支援の体制を整備し、多様な学生が意欲的に学べる環境を作る。
		年度目標	①外国人留学生に対する支援を充実させる。
		達成指標	「基礎ゼミ」クラス編成における工夫や「ラーニング・サポーター制度」を活用した留学生支援等を実施しつつ、留学生支援を充実させる。
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	国際交流委員会主催で、4月の授業が始まる前の時期に留学生（新入生・在学生）を集め、学生生活上の諸注意や学部カリキュラムの特徴の説明を行う懇談会を実施した。また、1年次必修科目の「キャリアデザイン学入門」で、留学生だけを集めて履修上の注意を促すなど、学部として環境づくりを行った。
		改善策	学部から留学生に呼びかけるタイミングが遅れたため、参加者が少なかった。今後は学部事務の協力を得て、メールや手紙など、多様な方法で留学生にアプローチすることが必要である。
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	留学生への特別な配慮の実践には一定の意義があったと認められるため、今年度の方向性は次年度以降も踏襲し、進めるのがよいと考えられる。	
	改善のための提言	執行部も述べるように、参加できなかった留学生をいかにして取り込むか、引き続き努力が必要である。各教員個々による関心や注意の向け方も、より強化する必要がある。	
No		評価基準	学生支援
13	年度末報告	中期目標	学生支援の体制を整備し、多様な学生が意欲的に学べる環境を作る。
		年度目標	②キャリアアドバイザー制度の効果的活用を図る。
		達成指標	キャリアアドバイザー委員会が中心となって、キャリアアドバイザーの業務内容や業務フローを整理して、より効果的な体制のあり方を検討する。
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	キャリアアドバイザーの業務内容や業務フローを可視化し、要不要について検討した結果、以下のように整理した。 ①学生の相談に関しては、ワンストップサービスを提供し、必要に応じて、キャリアセンターや学生相談室につなぐ体制を構築した。また、学部から依頼する面談についても内容を精査した。 ②授業補助に関しては、授業の補助者という位置づけを科目担当教員と共有し、負担を調整した。兼任に対する補助はこれまで通り行うが、専任教員については、事務的な書類手続きや実習先との連絡調整を主な業務内容とした。 ③就職支援イベントや履修相談イベントについては今後、より充実させていく。
		改善策	就職支援や履修相談にのってこない消極的な学生に対する対応を検討しながら、引き続きより効果的な体制のあり方について検討する。
		質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生相談やキャリアカウンセリングにつながるワンストップとしての役割に一定の効果があつたと考えられるため、引き続きこの方向でいくことがよいと考えられる。授業支援に関しても、学生からの意見を聴くに、意義があるものと考えられるため、引き続きこの体制が望まれる。	
	改善のための提言	就職支援や履修相談にのってこない学生のうち、自分で消化できる学生もいれば、そうでない学生もいると認められる。後者をいかに取り込むか、課題である。キャリアアドバイザーと、学務課および教員の連携や情報共有が、より積極的に必要である。	
No		評価基準	社会連携・社会貢献

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



14	中期目標	教育・研究を通じて社会貢献、社会連携を教育成果や研究成果を適切に社会に還元する。	
	年度目標	①授業を通じた社会貢献、社会連携を図る。	
	達成指標	講義科目においても、社会人の招聘を増やし、社会連携による教育をさらに充実させる。演習や体験型授業などにおいては、社会課題をとらえた内容や方法を工夫し、社会貢献や社会連携活動を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	「就業機会とキャリア」は半期全ての回で社会人を招聘する講義である。キャリアモデルケーススタディはおよそ2回に1度の頻度で社会人を招聘している。本学部は、基幹、展開にかかわらず講義での社会人招聘の機会が多い。体験型選択科目においては、ほぼ全ての科目が社会連携をベースに授業が組み立てられている。積極的に社会と連携しながら活動するゼミナールも多くなっている。
		改善策	負担が重い社会貢献・社会連携の授業や活動に関して、学部としてどのように支えていくかの検討や姿勢が欠如している。個々の教員の努力に任せている部分が多く、組織としていかに社会連携を学び中に位置付け支援策を実行する。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	執行部が述べるように、社会連携に関する個々のクラスや各教員の取組みは、個別差はあるものの、積極的になされているため、評価に値する。しかし、その濃淡をどう埋めていくかは、今後の組織的課題である。
		改善のための提言	各教員の努力による部分もあり、外部からの講師の招聘はもちろん効果的である。ただし、それに限らず、個々の教員がいかに社会と連携したコンテンツを各クラスで行っているか、情報共有してもよいと考えられる。
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
15	中期目標	教育・研究を通じて社会貢献、社会連携を教育成果や研究成果を適切に社会に還元する。	
	年度目標	②「人生100年のキャリア」についての社会的関心が高まる中で、学部のキャリア研究成果を社会に還元する。	
	達成指標	法政大学キャリアデザイン学会ホームページの充実を図る。学会紀要、学部紀要のアーカイブを進め研究成果へのアクセスの容易化を実現する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	法政大学キャリアデザイン学会ホームページ（ <a href="http://cdgakkai.ws.hosei.ac.jp/wp/">http://cdgakkai.ws.hosei.ac.jp/wp/</a> ）では、キャリア研究の成果を随時、更新し、研究成果を広く社会に還元してきた。本年度はCD学会の開催案内、その他大学院シンポジウムの内容についても掲載した。なお、例年通り、キャリアデザイン学会誌紀要と学部紀要に掲載された論文は、全て電子版のアーカイブとしてHPから無料でダウンロードできる。学会HP上にキャリア研究に関連する論文を電子版で一元化し、キーワード検索を実装したことにより、研究成果に容易にアクセスすることが可能となった。
		改善策	到達結果を踏まえつつ、必要に応じて今後も引き続き対応を行っていきたい。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	各自の研究成果を学部として外部に開くことは、学部紀要や法政大学CD学会紀要の出版およびウェブ上での公開、さらにシンポジウムの開催等によって示してきたため、十分積極的に行われたと考えられる。次年度以降もこの方向が望まれる。
		改善のための提言	引き続きこの方向で進めるとともに、新たな手段が考えつくのであれば、新たな試みをやってみる余地も、中長期的に考えてよいかもしれない。
【重点目標】			
<p>入学定員の厳格化を踏まえ、入学経路別の学生の状況を適切に把握し、入試制度を検討する。</p> <p>教育課題に関しては、学部の特徴である体験型科目について、2018年度から開始された「キャリア体験：国際・台湾」のプログラムについて、引き続き状況把握に注力し、体験型科目の科目相互の情報共有・連携を図りながら、とりわけキャリア</p>			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

アドバイザー制度の活用を含めた効果的な展開のあり方について検討を行う。

【年度目標達成状況総括】

入試制度の検討については、特別入試のあり方を検討するワーキングを立ち上げ、データに基づいた分析を進めつつ、一般入試への英語外部試験の導入と特別入試の募集条件と選考方法に関して検討することができた。英語外部試験の導入に関しては教授会の承認を得て、来年度の入試から実施する。特別入試に関しては、条件水準の引き上げを実施する。いずれも具体的な改革の実行という成果が得られた。また「キャリア体験・国際」については、国際交流委員会が中心となって、事前のプログラムの確認および授業後の実施状況についての報告の徹底を図ることができた。さらにキャリアアドバイザー制度の活用については、FD 会議等で現状と課題を共有したほか、キャリアアドバイザーの業務内容や業務フローを可視化し、要不要について検討することができた。

【2019 年度目標の達成状況に関する大学評価】

キャリアデザイン学部における 2019 年度目標の達成状況は概ね適切である。教育課題・学習成果に関しては、学部の特徴である体験型科目が適切に計画・実行され、教育効果を含めその状況について情報共有・連携がなされている。引き続き効果的な授業展開となるよう取り組みに期待したい。学生の受け入れに関して、入学手続き完了者数はほぼ定員通りであったが、特別入試の入学者数が当初予定より約 10%多く、一般入試の入学者数と同数となった。これについては、ワーキンググループを立ち上げることで、入学経路別の学生の状況が把握され、入試制度内容等についても適切に検討がなされている。

IV 2020 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	2017 年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	①2018 年度から実施する「キャリア体験学習（国際・台湾）」が二年度目にあたることから、引き続きその実施状況の把握、点検を行う。
	達成指標	2020 年度の実施プログラムについて、執行部、国際交流委員会等が連携してプログラムの実施状況の把握につとめ、教授会での共有を図る。とくに 2020 年度より担当教員が変更になることから、堅実な業務の引継ぎをはかりながらプログラムを滞りなく進めていく。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	2017 年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	②2018 年度で終了した「多文化社会における日本語教育」等の日本語教育関連科目 6 コマ（半期）に代わって新規に設定した科目「キャリア研究調査法実習」について、昨年度に引き続きその実施状況の把握、点検を行う。
	達成指標	2019 年度から実施された科目「キャリア研究調査法実習」について引き続き、執行部、教務委員会等が実施状況を把握し、教授会で共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	2017 年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	③2019 年度見直した履修者数が少ない情報処理演習についてその後の経過観察を行っていく。
	達成指標	2019 年度から見直された科目「情報処理演習」について執行部、教務委員会等が実施状況を把握し、教授会で共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
4	中期目標	2017 年度から実施している教育課程の効果を検証し、必要に応じてカリキュラム内容の検討を行う。
	年度目標	④グローバル化に対応し、英語能力を有する人材育成を行う。
	達成指標	2019 年度に引き続き英語担当教員を中心に、カリキュラム、学生の学習能力向上に向けた取

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		り組みの検討を始める。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
5	中期目標	100分授業の教育効果を高めるための教育方法について検討する。
	年度目標	2020年度春学期は、新型コロナ感染防止対応の観点から実施された授業のオンライン化に適切に対応すべく、教員の実施する教育方法についての取組状況と課題を共有し、教育方法の改善を進める。
	達成指標	教務委員会を中心に取組み状況を把握し、FDミーティングで状況を共有し、改善に向けた課題、授業の質を保証するための方策を検討する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	本学部の教育目標を達成するとともに、その教育成果を発信する。
	年度目標	①就職支援を充実させ、大学のキャリア支援策をリードする。
	達成指標	学部の特色を活かし、キャリアセンターとの連携を取りつつキャリアデザインという観点から学部独自の就職支援策を実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
7	中期目標	本学部の教育目標を達成するとともに、その教育成果を発信する。
	年度目標	②体験型科目に関しては、成果の可視化に取り組む。
	達成指標	体験型科目の成果報告集の作成、ポスターセッションの実施等により、多様な体験の内容を発表する機会を設ける。さらにキャリア体験学習（国際）についてはその成果を学部HP等を通じて全学にも発信していく。
No	評価基準	学生の受け入れ
8	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。
	年度目標	①入学者の定員管理を厳格に行う。
	達成指標	2019年度に引き続き特別入試と一般入試の入学者の割合を考慮しつつ、適切な水準の入学定員の充足を図る。
No	評価基準	学生の受け入れ
9	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。
	年度目標	②指定校、特別入試に関して、入学者の状況を適切に判断し、制度内容等についての検討を行う。
	達成指標	2019年度に検討した一般入試への英語外部試験の導入及び特別入試の募集条件と選考方法の改定に踏まえた入試を適正に実施する。また自己推薦の試験趣旨の選考過程での明確化、指定校入試における志願状況や入学後成績の分析を踏まえた指定校との緊張感ある関係づくりなどに継続的に取り組む。
No	評価基準	学生の受け入れ
10	中期目標	入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。
	年度目標	③入学希望者に対しては、アドミッションポリシーの理解を高めるために、学部としての情報発信の効果的な方法を検討す
	達成指標	学部広報として、ゼミ紹介等の動画配信をさらに増加させるとともにインターネットを活用した広報への取り組みを重点化する。また、学部シンポジウムの充実を図る。
No	評価基準	教員・教員組織
11	中期目標	3つの領域の教員バランスに配慮し、教員の多様性を確保することに留意し、適切な教員の任用を行う。
	年度目標	2020年度から専任教員が1名減となることを踏まえ、適切な教員配置について検討する。
	達成指標	学部教育、資格課程、大学院教育における教員の配分の現状分析を執行部・教務委員会を中心に行い、必要に応じて配分の変更について検討を進める。
No	評価基準	学生支援
12	中期目標	学生支援の体制を整備し、多様な学生が意欲的に学べる環境を作る。
	年度目標	①外国人留学生に対する支援を充実させる。
	達成指標	「基礎ゼミ」クラス編成における工夫や「ラーニング・サポーター制度」を活用した留学生

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		支援等を実施しつつ、留学生支援を充実させる。
No	評価基準	学生支援
13	中期目標	学生支援の体制を整備し、多様な学生が意欲的に学べる環境を作る。
	年度目標	②キャリアアドバイザー制度の効果的活用を図る。
	達成指標	キャリアアドバイザー委員会が中心となって、キャリアアドバイザーの業務内容や業務フローを整理して、より効果的な体制のあり方を検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
14	中期目標	教育・研究を通じて社会貢献、社会連携を教育成果や研究成果を適切に社会に還元する。
	年度目標	②「人生100年のキャリア」についての社会的関心が高まる中で、学部のキャリア研究成果を社会に還元する。
	達成指標	法政大学キャリアデザイン学会ホームページの充実を図る。学会紀要、学部紀要のアーカイブを進め研究成果へのアクセスの容易化を実現する。あわせて大学のグローバル化涵養の観点からキャリア体験学習（国際）の学習成果を学部HP等を通じて大学全体に発信していく。
<p><b>【重点目標】</b>          入学センターと連携しながら、定員管理の適正化及び入学者の質の向上に努める。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>          ・2019年度に検討した一般入試への英語外部試験の導入及び特別入試の募集条件と選考方法の改定を踏まえた入試を適正に実施する。また自己推薦の試験趣旨の選考過程での明確化、指定校入試における志願状況や入学後成績の分析を踏まえた指定校との緊張感ある関係づくりなどに継続的に取り組む。</p>		

**【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

<p>キャリアデザイン学部の掲げる2020年度中期目標・年度目標はともに現状を踏まえており、妥当である。特に教育課程・学習成果に関しては、状況把握や情報共有、課題への取り組みなど達成指標は適切かつ具体的である。しかし2019年度末報告において執行部による改善策や質保証委員会による改善のための提言が挙げられているものについては、2020年度目標の達成指標に盛り込まれていなかった。</p> <p>重点目標には、入試制度に関して定員の管理と入学者の質の向上が掲げられており、そのための施策となる一般入試への英語外部試験の導入や特別入試の募集条件と選考方法の改定による適正化などについて、着実な取り組みを期待したい。</p>
--

**【大学評価総評】**

<p>キャリアデザイン学部は、ほぼすべての項目について、課題、問題点を的確に把握し、その対応策は適切かつ具体的である。2019年度の大学評価委員会の評価結果への対応は適切であったが、今後は、年度目標達成状況報告書にて年度末に把握された課題を次年度の目標や達成指標に盛り込むことが望まれる。2017年のカリキュラム改編により、学部の理念や目的に合致したカリキュラムの体系性、順次性、階梯性の整備は適切かつ順調に進んでいる。学部の特色である体験型学習は、教員の業務負担など継続的な課題は残るものの、学外の企業やNPO、地域団体、高等学校などと協働した「キャリア体験学習（国際）」や「キャリアサポート実習」「地域学習支援」など、高い学習効果を得ており、高く評価できる。また、学習の成果は教員に共有され、組織的に改善・検討が適切になされており、1学科学部であるキャリアデザイン学部の機動性は高く評価できる。本学の中小規模学部を牽引する存在となることを期待したい。</p>
---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。